

福島社会イノベーション創造事業：復興と廃炉が両立する社会構築

アジア太平洋研究センター、ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター、レジリエンス研究所

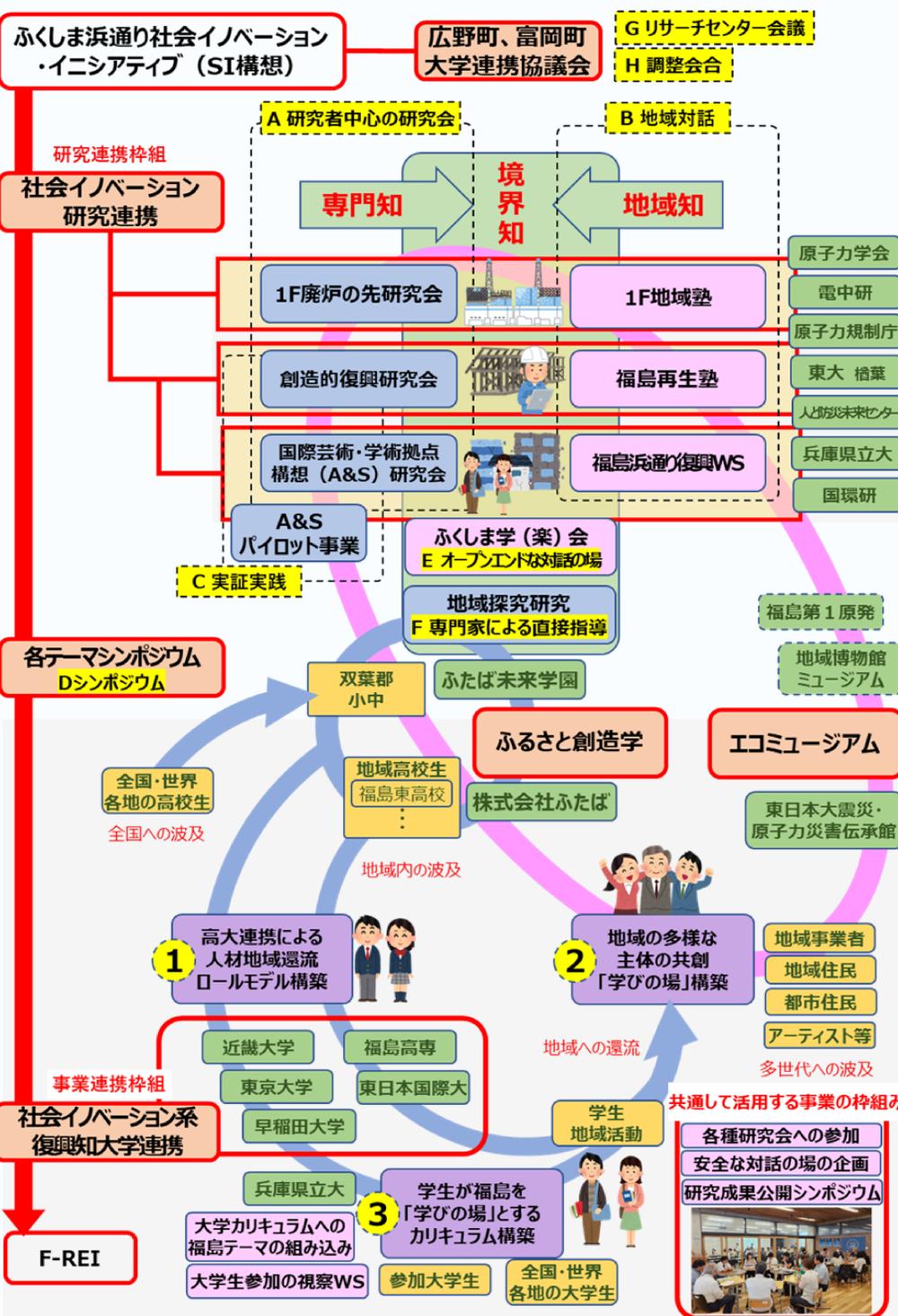
事業の目的

福島における復興と廃炉に関する調査研究を、地域の皆さんと多様な専門家とが協働して実施し、長期的・広域的な観点から復興と廃炉の将来像の選択肢を広く社会へ提案する。このことを通じて、2050年に持続可能な福島浜通り地域社会の形成を目標とした社会イノベーション（社会変革）を創造し、日本社会の再生を実現する。

市町村/各種団体との連携体制の構築

- ・ 広野町・富岡町とともに浜通りの長期的・広域的観点からの復興の横展開
- ・ 双葉地方町村会および被災15市町村など周辺自治体との連携
- ・ 研究会メンバーの所属機関やふたば未来学園、地域団体との連携

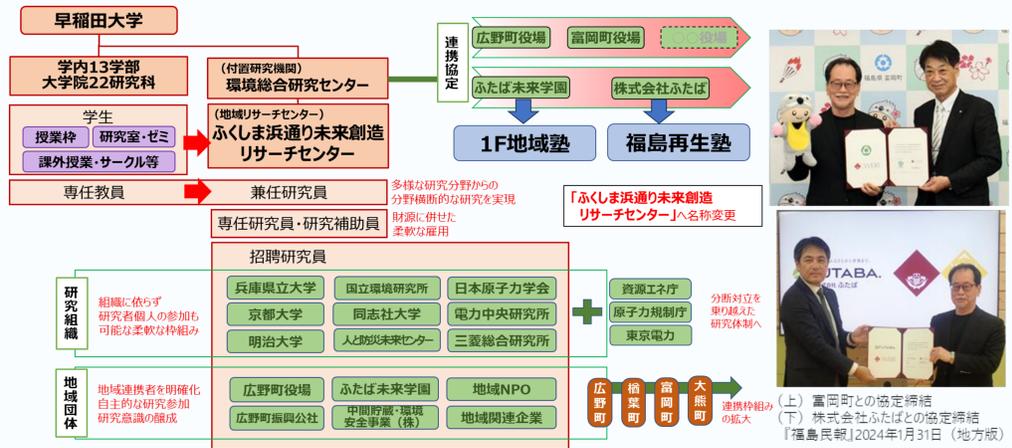
事業の概念図



めざすべき人材像と人材育成目標

- 福島の教訓を踏まえて、継続的に福島の課題を「自分ごと」ととらえ、科学技術と社会の関わりについてのイノベーションを起こす人材を育成する。
- トランスサイエンスを対象とした対話の実践、自分ごと化のプロセスを重視する。
- ①～③のカリキュラム連携により、一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的な学びに活かすプラットフォームを構築する。

連携体制



教育研究プログラムの概要



「対話の場」+「学びの場」モデルの形成



事業終了時点の成果及びその後の見通し

- “ふるさと創造学”のプラットフォームを継続運営するため、地域における課題解決研究を維持し、そこへ高校生や様々な世代が参加する対話の場、学びの場（Learning Communityを維持・継続（「1F地域塾」「福島再生塾」））。
- 復興知事業終了後、上記の2つの塾について、連携関係を構築した「ふたば未来学園」「株式会社ふたば」の予算として確保することで持続的な運営をめざす。

福島社会イノベーション創造事業：復興と廃炉が両立する社会構

アジア太平洋研究センター、ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター、レジリエンス研究所

各種教育プログラムに参加

1F廃炉の先研究会

立場を越えた主体者の研究会への参加



研究会の様子

年間4回の研究会を計画、1F遺構保存、中間貯蔵施設の先、津島地区の復興など**核心的な地域課題をテーマ**として扱う。

<本年度のテーマ>
従来の1Fを事故遺構として保存すべきかどうかといった漠然としていたところを、技術的側面や制度的側面からの具体的に考察する。

<予定中のスケジュール>
11月25日 第32回1F廃炉の先研究会
「1F廃炉の技術マネジメントを考える：燃料デブリの試験的取り出しを事例に」

1F地域塾

世代を超えた対話の場の企画



地域塾での議論

昨年に引き続き60人規模の継続的な対話の場を2回計画。**ふたば未来学園と協働し、地域の多世代の多様なアクターの参加による対話の場を实践、研究会の議論を社会還元**する。

<本年度のテーマ>
「社会のなかの廃炉」「地域のなかの廃炉」の具体化を目指し、「1F遺構保存」を含む1F廃炉の将来像の多様な選択肢を広く社会へ提案していく。

<予定中のスケジュール>
2025年 6月頃 第12回1F地域塾

創造的復興研究会

各種研究会への参加



研究会の様子

年間4回の研究会を計画、**震災当時の復興合意形成、被災者の記憶の調査**を通して、**原発依存からの脱却**を研究する。

<本年度のテーマ>
福島復興の中で忘れられた津島の復興問題など、まだ正確に把握されていない地域課題に対して、現状・事実を正確に把握し、問題を歴史的かつ構造的に分析し、多様な見方や考え方を整理する。

<予定中のスケジュール>
12月 6日 第15回創造的復興研究会
12月 18日 第16回創造的復興研究会
2025年2月3日 第17回創造的復興研究会

福島再生塾

地域主体の対話の場の企画



開塾式の様子

本年度発足し、地域の関係者を巻き込んで継続的な対話の場を計画。**地域の官民連携を重視し、参加者ファンド、学びの場の構築などを通じた関係人口参加型のコミュニティ**をめざす。

<本年度のテーマ>
福島復興における「まちづくり」に焦点を当て、かかわっている様々なステークホルダー、多様性の尊重、民間主導モデルや公民連携モデルの具体化を進めて地域再生の福島モデルを創り出す。

<予定中のスケジュール>
2025年1月26日 第15回ふくしま学（楽）会・第3回福島再生塾

復興視察WS

大学生参加の視察WS

5つの関連講座などから募集した学生を中心に、年4回の視察を実施。**他大学にも参加の枠組を広げ、学生の継続的な関与を担保**する。



関連授業を入口として、多様な学部が参加してのWSを開催授業⇒現物を見る⇒体験を聞く⇒同世代との対話を経て自分ごと化する。講師陣も地域の協力者が充実してきた。

9月は東京農工大との連携。

7月27日(土) ~7月29日(月)	福島浜通りWS① 20名定員 ⇒ ふくしま学会に接続
9月6日(金) ~9月8日(日)	福島浜通りWS② 40名定員 ⇒ 東京農工大と連携
9月27日(金) ~9月29日(日)	福島浜通りWS③ 10名定員 ⇒ 1F地域塾に接続
2025年1月24日(金) ~1月27日(月)	福島浜通りWS④ 20名定員 ⇒ ふくしま学会に接続

ふくしま学（楽）会

安全な対話の場の企画

多様な専門家（行政も含め）と多様な市民（住民）による「対話の場」の構築、年2回開催で**オープンエンドな対話を実施し、専門知と地域知の出会いを創出**していく。



立場が異なる人々との対話により、多様な価値観があることを認識



【修士研究】 Enhancing Public Participation Across Ages: A Case Study of 1F Learning Community in Post-Disaster Recovery

Background

The world is increasingly under threat from the rising frequency and severity of natural disasters. Disaster-affected countries report economic losses of \$US 2,908 billion from 1998 to 2017. Within the realm of environmental public issues, such as post-disaster recovery, public participation emerges as a crucial element. However, complications arise when attempting to engage both adults and youth in decision-making processes. Understanding the dynamics of public participation and identifying effective approaches in the context of recovery becomes imperative for comprehensive and sustainable rehabilitation efforts.

Objective

- To identify Factors Affecting Participant Satisfaction Among Different Age Groups.
- To develop a Structural Equation Model (SEM) based on Weblar's Fairness and Competence Model.

Research Questions

- ◆ Main Question: What factors influence participant satisfaction across age groups during a public participation process?
- ◆ Sub question: How can a framework be developed to effectively measure satisfaction, considering it as a latent variable in the context of public participation?

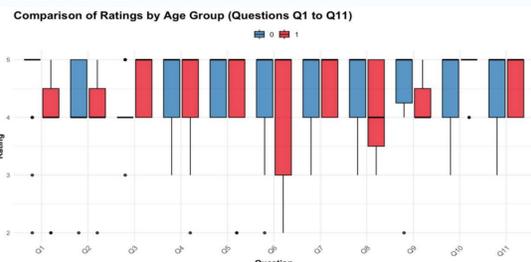
Theoretical Framework

Fairness	<ul style="list-style-type: none"> Attendance (being a participant in the discourse) Initiating discourse (making speech acts) Discussing (challenging and defending claims) Deciding (influencing the collective consensus)
Competence	<ul style="list-style-type: none"> Access to information and to its interpretations Use of the best available procedures for knowledge selection

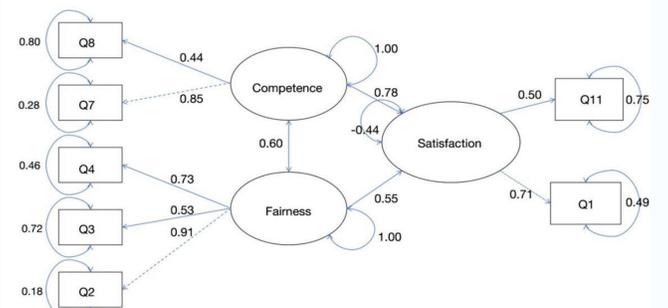
Research Design

- How satisfied are you with today's 1F learning community meeting?
- During the group discussion, were you able to express yourself adequately?
- During the group discussion, were your group members able to express themselves adequately?
- During the group discussion, did you discuss with people with different background?
- Was it easy for you to share your thoughts in the discussion atmosphere?
- Were you able to share your thoughts without worrying about other group members' identity and status? and the other 5 items...

Results



Model	Dependent Variable	Predictors	Multiple R-squared	Adjusted R-squared	Significant Predictors
Global Model	Q1(Overall Satisfaction)	Q2,3,4,5,6,7,8,9,10, age	0.8027	0.7131	Q7 (p=0.00781)* age (p=0.00625)*
Intermediate Model	Q1(Overall Satisfaction)	Q2,6,7, age	0.7803	0.7489	Q2(p=0.001824)* Q6(p=0.08786). Q7(p=6.51e-06)*** Age(p=0.00169)**
Final Model	Q1(Overall Satisfaction)	Q2,7,age, Q6:age	0.8016	0.7732	Q2(p=0.041689)* Q7(p=7.71e-07)*** Age (p=0.000988)*** age(p=0.016789)*



Conclusion

The SEM proves that both fairness and competence emerged as factors of potential, representing a positive impact on participants' satisfaction within the 1F learning community meeting. In the context of fairness, paramount significance is accorded to the provision of ample opportunities for self-expression, followed closely by the facilitation of discussions among individuals from diverse backgrounds. Conversely, in the realm of competence, the most important determinant is the meticulous organization and arrangement of activities, with the degree of complexity for participants to comprehend the information and knowledge presented during the activity emerging as the second pivotal factor.